



殿岡茂男

栃木県 J A 足利 生活部生活振興課 課長

とのおか・しげお／1990年に J A 足利に入組し、購買担当として支店に配属。以降支店にて金融渉外やライスセンターでの米麦担当の営農指導員を経て、生活振興課では「あぐりキッズクラブ」などの立ち上げに従事。筑波支所長を経て2022年4月より現職。

営農指導員の経験を活かし、「あぐりキッズクラブ」や管内小学校での出前授業などを自ら企画・開催。子どもたちに食農教育を実践するだけでなく、地域住民に向けたさまざまな企画を立ち上げ、J A と地域住民の接点づくりに努める殿岡課長。食農教育への想いや苦労についてお聞きしました。

■ JA 多くの人と協力して困難を乗り越えてきた

——殿岡課長は1990年に J A 足利に入組以来、購買担当や営農指導員などを経験され、生活振興課に配属となつてからは「あぐりキッズクラブ」などを立ち上げました。今までに配属された部署で印象に残っているエピソードなどがあれば教えてください。

J A に入組し、10年間は支所勤務でした。最初の5年間は、足利支所で購買担当・金融渉外をしていました。その後筑波支所へ異動となり購買担当として業務を行いました。着任2年目にして、支所での購買担当が自分と事務の女性の2

名のみとなり心細かったこともありましたが、来店された組合員にいろいろ教えていただいたり、一緒に課題を考えたりしながら農業について学び、相談にものれるようになりました。

その後ライスセンターに配属となり、米麦を担当する営農指導員として米やビール大麦・小麦の生産指導をするほか、農産物検査員の資格を取り、品質検査も行いました。ここで印象に残った出来事としては、大麦の収穫最適期に収穫を促し、上位等級で出荷できたことです。組合員が収穫前に刈り取った大麦を持ってきて状態を見たときに大変粒立ちが良く、このタイミングだと判断しました。

また、当時県内では赤カビへの対策が課題となっていました。ＪＡ足利では、麦部会役員が「安心安全な麦を出荷しよう」と生産者へ呼びかけ、生産者も協力してくれたため麦畑全面積に薬剤を散布できました。

このとき、組合員が一致協力する協同組合ならではの素晴らしさを実感しました。



事務所に本棚を設置し、『家の光』や『ちゃぐりん』『家の光図書』を展示している



親しみやすい雰囲気づくりのため、ＪＡ生活振興課の事務所前で野菜をプランターで育てている

■ 子どもたちに食と農への理解を深めてもらいたい

——ＪＡ足利では「あぐりキッズクラブ」に力を入れています、具体的な取り組みや子どもたちの反応を教えてください。

あぐりキッズクラブは小学生対象に５月から１１月まで毎月１回開催され、野菜のプランター栽培や田植え、稲刈りなどの農作業がカリキュラムに入っています。他部署の職員にも協力してもらい現在１３人体制で運営しています。

あぐりキッズクラブで植えたプランターの野菜苗を参加者自身の家に持ち帰り、各自で栽培してもらうのですが、夏休みに家庭訪問をして生育状態を確認するというオリジナルの企画もあります。家庭訪問を希望していないご家庭にはＪＡで発信しているInstagramを案内して、サポートしています。

子どもたちは農業に触れてきたことがない子もたくさんいます。中には「ピーナッツを植えたら木が生えてくるんでしょ」「白米がそのまま生えてくるんじゃない

いの」と言っている子もいました。保護者でも同じように知らない方々がいて、子どもに間違った知識を教えてしまっていることもあるようです。参加者には一つ一つ丁寧に作物のできる過程を説明し、実際に栽培してもらい、栽培の難しさや収穫できたときの喜びや楽しさを体験し学んでもらっています。

このあぐりキッズクラブに参加して、野菜嫌いだったが、食べられるようになった子や、土いじりが大好きになった子がいるなど良い話を聞いています。



夏休みには家庭訪問を実施。参加者が育てている稲の生育状態を確認しながらアドバイスをします。



小学校の出荷授業ではお米が炊きあがる様子を透明な鍋で観察します。

■「あぐりキッズクラブ」の立ち上げに携わった

——殿岡課長はライスセンターから生活振興課に配属されてすぐに「あぐりキッズクラブ」の立ち上げに携わられました。「あぐりキッズクラブ」立ち上げまでに取り組まれたことや苦労されたことなどをお聞かせください。

2012年、生活振興課に配属されたときにあぐりキッズクラブを立ち上げました。最初は右も左もわからない状態でしたが、中央会からいただいた他JAの事例資料やインターネット検索などを駆使して企画しました。以前に営農指導をしていたこともあり、その知識を活かして子どもたちに自ら農業についての知識を教えることにしました。そして迎えた第1回のあぐりキッズクラブですが、十数名の子どもたちが集まりました。最初の段階では知名度が低く参加者を集めるのも大変でしたが、回数を重ねるごとに口コミで広がって参加者も増え、ピークでは66名の子どもたちが参加してくれました。

■地域住民とJAとのつながりを深めたい

——生活振興課では「あぐりキッズクラブ」のほかにも地域住民に向けた「男のいきいきセミナー」や女性大学「あしかが美人スクール」、食農教育の一環として小学校への出前授業などを企画・運営をされています。これらのイベントの参加者からはどのような反応がありますか。

小学校の出前授業では足利市内の小学校に自ら赴き、バケツ稲やプランター野

菜の育て方や、野菜の生育について指導しています。稲の生育を説明するときは『ちゃぐりん』の過去の記事などを使うこともあります。この企画は2013年頃に始まり、最初は出前授業の依頼があった数校のみで行っていましたが、現在は11校で行っています。出前授業に行くと、小学校の生徒たちに顔を覚えていただき、町で会うと「農協のおじさんだ!」と声をかけられることもあります。



小学校の出前授業では、バケツ稲づくりを指導

こういったところでJ Aと地域の人との接点ができているのだと実感します。

ウォーキング大会は4月に6kmと8kmの2つのコースで開催しました。ライスセンターを起点に足利市内を巡るコースとなっています。完歩賞として「あしかが美人」トマトなどの野菜のプレゼントとイチゴの食べ放題コーナーがあるため、大変人気な企画です。応募開始から半日で定員となり、募集を終了するほどです。組合員以外の参加者が多く、直売所などを利用いただくきっかけになっています。

「男のいきいきセミナー」は組合員の男性が一人で料理や家事ができるようになるためにはじめて講座

で最初は料理教室や手芸教室などを開催していました。あるときからそば打ちがメインに行われるようになり、組合員以外の男性にも人気な企画となりました。ほかにもケーキ作りも企画しています。参加者は60代が一番多いです。

参加者の中には講座で習ったそば打ちを子どもや孫に披露する方もいらっしゃるそうです。このイベントもあぐりキッズクラブと同時期に立ち上げをしました。

さらに、女性大学「あしかが美人スクール」では料理や手芸、花の寄せ植えなどの講座が行われています。最近では、お菓子作りやキッシュなどのおしゃれな料理を作ることがあり、30



「男のいきいきセミナー」で人気企画のそば打ち



「あしかが美人スクール」で参加者が花の寄せ植えを体験!

代～40代の若い世代の方が参加しています。

これらの活動では組合員以外の地域の方よりたくさん参加があることから、こうしたところでJ Aファンづくりのきっかけづくりができているのではないかと思います。引き続き地域住民を巻き込んだ企画を行うことでJ Aファンを増やし、次世代の担い手を増やしていきたいです。

■🔥 活動を継続することの大切さ

——最後に今後の活動への想いや伝えたいことを教えてください。

J Aは組合員や地域の方々にとって身近で、誰でも気軽に利用できて相談ができる場所でなくてはなりません。それを実現するために、次世代の職員たちには現在J Aで行っている活動の継続の大切さを伝えていき、職員一人一人が明るく元気よく、またその人自身が楽しんで活動できるよう努力していきたいです。